

独立行政法人奄美群島振興開発基金 事業年度評価の全体評価シート

中期計画の項目	評定	理由・指摘事項等
<p>第1 業務運営の効率化に関する目標を達成するためとるべき措置</p>	<p>A⁺・A・B・C・D</p>	<p>全体として、厳しい経営環境の中で効率化に向け努力していると認められる。</p> <p>具体的には、債権管理委員会による大口回収の成功、事業者再生支援委員会における資産売却による債務圧縮のアドバイス、事務コストの軽減等のプロジェクトの実施、全体会議における目標と重点戦略の共有などに努めた。一般管理費及び総人件費の削減については、役職員の退職手当の支給水準の引き下げ措置などの実施により、年度計画を上回る実績をあげており、業務運営の合理化・効率化に向け、各指標とも順調に達成している。</p> <p>対国家公務員ラスパイレス指数については、25年度は93.1と前年度に比して3.1ポイントと大きな改善がなされており、依然、低い水準にある。</p>
<p>第2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置</p>	<p>A⁺・A・B・C・D</p>	<p>全体として、迅速な処理を行っており、情報提供等も適切に行われている。</p> <p>具体的には、標準処理期間内での事務処理に引き続き努め、迅速化を図っているほか、審査能力向上のための勉強会、CRDの活用も計画どおり行われている。また、融資業務関係者会議における適切な保証・貸付条件の設定に向けた調査・検討を踏まえた見直しに加えて、個別融資先から事業完了確認資料を徴求している。関連規程等の改正による債権管理の強化など各指標とも順調に達成している。</p> <p>また、業務や財務情報に関する利用者の理解を深めるため、引き続き、ホームページや窓口等におけるタイムリーな情報提供を行うとともに、利用者ニーズをより具体的に把握するため、従来から実施しているアンケート調査の内容改正や、満足度を数値化し利便性の向上に繋げる取り組みを行うなど、年度計画を達成している。</p>
<p>第3 予算、収支計画及び資金計画</p>	<p>A⁺・A・B・C・D</p>	<p>リスク管理債権は着実に減少しているものの、リスク管理債権割合は依然として高い水準にある。今後とも、CRDによるスコアリング、金融機関プロパー融資との併用促進、全案件の審査委員会審議、金融機関との協調による事業者の経営改善の促進等による審査及び債権管理体制の強化を図り、リスク管理債権割合の低下を促す必要がある。</p> <p>また、予算については、収支については計画を上回り、二期連続で利益計上するとともに、昨年度に引き続き繰越欠損金が減少する等改善が図られているものの、収入において貸付回収金・求償権回収金の減少</p>

		により予算額を下回り、支出においては貸付金・一般管理費の減少で予算額を下回った。
第4 短期借入金の限度額	—	—
第5 重要な財産の譲渡等の計画	—	—
第6 剰余金の使途	—	—
第7 施設及び設備に関する計画	—	—
第8 人事に関する計画	A ⁺ ・ A ・B・C・D	<p>人事に関する年度計画を達成していると認められる。</p> <p>具体的には、職務、職級に応じた人事考課を実施していることに加え、その評価内容が個人面談等を通じ各職員にフィードバックされている。また、職員のインセンティブの確保を図ると同時に、給与規程の改正等により職員の能力等に見合った人事制度が行われている。さらに際立った成果、資格取得等を行った職員に対する表彰も実施されている。</p> <p>内部統制体制の充実強化を図るため、監査を含む内部統制担当職員を専任配置したほか、長期にわたり同じ業務を行っている職員の異動を実施するなど、職員の能力や資質等を反映した適切な人員配置の実施等必要な措置が図られている。</p>

全体評価

全体として、業務運営の効率化や業務の質の向上、人事に関する計画については、一定の評価が認められる。また、収支面では二期連続の利益計上となり、昨年度に引き続き繰越欠損金も減少するに至った。今後も、業務改善を進めて、一層の財務内容の改善に取り組む必要がある。

業務運営の効率化については、全体として順調に年度計画を達成しており、債権管理委員会による大口回収の成功、事業者再生支援委員会における資産売却による債務圧縮のアドバイス、事務コストの軽減等のプロジェクトの実施、全体会議における目標と重点戦略の共有などにより、更なる効率的な業務運営体制の構築に努めている。さらに、審査業務の効率的な運営を図るため、顧客毎の稟議書ファイルの整備並びに取引状況表の改善等を行っている。一般管理費及び総人件費の削減については、役職員の退職手当の支給水準の引き下げ措置などもあり、年度計画を上回る実績をあげており、業務運営の合理化・効率化を積極的に実行している。対国家公務員ラスパイレス指数については、25年度は93.1と前年度と比して3.1ポイントと大きな改善がなされており、依然、低い水準にあるなど業務の合理化・効率化に向けた取り組みを実施していることは評価できる。

業務の質の向上については、標準処理期間内での事務処理に引き続き努め、迅速化を図っているほか、審査能力向上のための勉強会、CRDの活用も計画どおり行われている。また、融資業務関係者会議における適切な保証・貸付条件の設定に向けた調査・検討を踏まえた見直しに加えて個別融資先から事業完了確認資料を徴求している。さらに関連規程等の改正による債権管理の強化が図られている。業務や財務情報に関する利用者の理解を深めるため、引き続き、ホームページや窓口等におけるタイムリーな情報提供を行うとともに、利用者ニーズをより具体的に把握するため、従来から実施しているアンケート調査の内容改正や、満足度を数値化し利便性の向上に繋げる取り組みを行うなど、年度計画を達成している。

人事に関する計画については、順調に達成しており、職務、職級に応じた人事考課を実施していることに加え、その評価内容が個人面談等を通じ各職員にフィードバックされている。また、職員のインセンティブの確保を図ると同時に、給与規程の改正等により職員の能力等に見合った人事制度が行われている。さらに際立った成果、資格取得等を行った職員に対する表彰も実施されている。

内部統制体制の充実強化を図るため、監査を含む内部統制担当職員を専任配置したほか、長期にわたり同じ業務を行っている職員の異動を実施するなど、職員の能力や資質等を反映した適切な人員配置の実施等必要な措置が図られている。

財務内容について、リスク管理債権は着実に減少しているものの、リスク管理債権割合は依然として高い水準にある。今後とも、CRDによるスコアリング、金融機関プロパー融資との併用促進、全案件の審査委員会審議、金融機関との協調による事業者の経営改善の促進等による審査及び債権管理体制の強化を図り、リスク管理債権割合の低下を促す必要がある。

予算面について、収支については計画を上回り、二期連続で利益計上するとともに、昨年度に引き続き繰越欠損金が減少する等改善が図られているものの、収入において貸付回収金・求償権回収金の減少により予算額を下回り、支出においては貸付金・一般管理費の減少で予算額を下回った。